

核セキュリティに関する動向

IAEAのインシデント及び不正取引データベース(ITDB)に係る2025年版 ファクトシートの概要

ITDB: 規制上の管理を外れた核物質及びその他の放射性物質の不正取引や、その他の不正な活動等の事案を収集したIAEAのデータベース。以下は、2023年、2024年及び1993年～2024年の期間内にITDB参加国から報告された事案の分類。

Gr.	事案	2023年		2024年		1993～2004年	
		報告数 (件)	割合(%)	報告数 (件)	割合(%)	報告数 (件)	割合(%)
Gr. I	不正取引または悪意ある使用に関連する、またはその可能性がある事案	6	3.6	3	2.0	353	8.0
Gr. II	意図が不明な事案	10	6.0	22	15.0	1,065	24.3
Gr. III	不正取引または悪意ある使用とは関連しない、または関連する可能性が低い事案	152	90.4	122	83.0	2,972	67.7
	計	168	100.0	147	100.0	4,390	100.0

・ 2024年に報告された計147件の事案のうち、

- ✓ 盗取事案は20件で、うち18件は、産業用に使用されるカテゴリ4（人体に危険である可能性は低い）～カテゴリ5（人体に危険である可能性は極めて低い）の放射線源に関連するもの。
- ✓ このうち10件の事案では放射線源は未回収。残りの2件の事案は、カテゴリ2（人体に非常に危険な放射線源）～カテゴリ3（人体に危険な放射線源）に関連するもので、放射線源は回収済。

・ **Gr. Iに分類される3件の事案**における対象物質は、Pu、高濃縮ウラン(HEU)またはIAEAの安全基準でカテゴリ1の放射線源（人体に極めて危険な放射線源(radioactive source)）ではない。またそれらの事案においては、対象物質を国外へ搬出する意図も認められていない。対象物質は全て規制当局によって押収された。

Gr. IIの22件の事案の内訳は、(a)盗取11件、(b)不法所持3件、(c)対象物質が行方不明とされた事案が8件。このうち、(c)の8件のうち6件では、報告時点において対象物質は未回収であった。また22件のうち1件の事案の対象物質はカテゴリ2（人体に非常に危険な放射線源）に分類される放射線源で、報告時点では未回収であった。またその他の1件の事案の対象物質は、カテゴリ3（人体に危険な放射線源）に分類される放射線源であったが、報告されるまでにカテゴリ4（人体に危険である可能性は低い）レベルまで低下した。残りの20件の事案では、対象物質はカテゴリ3未満の放射線源であった。

・ **Gr. IIIの122件の事案**の殆どは、対象物質が規制上の管理を外れたもの。不正取引、悪意ある使用、詐欺とは無関係の事案である。その殆どは不正な廃棄、輸送、保管、紛失等であったが、7件の盗取事案があった。複数の事案で、放射性物質で汚染された工業製品が見つかった。